

みじ たら 水どう宝 (島をはぐくむ宝の水)

— 鹿児島県和泊町，知名町 —

鹿児島県沖永良部事務所 大久保 隆 幸・鹿児島県農村振興課 野口 美 矢

I. はじめに

表紙写真は、夏の強い日差しのもと、サトウキビへ灌水している様子である。現在、沖永良部島では、地下ダム工事が進み、農業事情が変わりつつある。

ここでは、沖永良部島における畑地灌漑について紹介する。

II. 沖永良部島の概要

1. 位置・気候

沖永良部島は、鹿児島から沖縄へつながる南西諸島に位置し、鹿児島から南南西の方向約 550 km にあり、周囲約 56 km、最大標高 245 m の平坦な島である(図-1)。

島の大部分が琉球層群(隆起珊瑚石灰岩)で形成されており、亜熱帯性気候で、平均気温が 22.4℃ と温暖な島である。

年間平均降水量は 1,836 mm と、鹿児島市(2,266 mm)と比べても少ない地域である。



図-1 沖永良部島の位置

2. 人口・行政区分

和泊町，知名町の 2 町の行政区分からなり、人口は約 1 万 3 千人，世帯数は約 5 千 6 百世帯である。

3. 産業

産業は、農業をはじめとする第 1 次産業が島内総生産額全体の 15.2% を占め、鹿児島県全体の 5.4% と比べて高い水準となっている(図-2)。

また、第 1 次産業のうち農業が約 98% を占め、島の経済において、きわめて重要な位置を占めている。

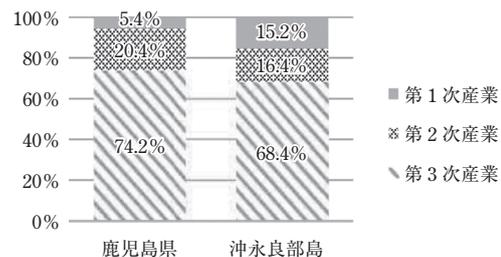


図-2 産業構成比¹⁾

III. 沖永良部島の農業

1. 作付面積

耕地面積は 4,470 ha で、大部分が畑であり、田は 3 ha のみとなっている。

平成 29 年度農作物作付面積の割合は、サトウキビが 48.2% を占め、これに続き、バレイショやサトイモなどの野菜が 32.4%，飼料作物が 12.5%，花きが 4.6% となっている(図-3)。

2. 農業産出額

平成 29 年度農業産出額は、102.7 億円となっており、花きが 30.2%，野菜が 28.4% を占めている。これに続き畜産(肉用牛)が 19.7%，サトウキビが 18.0% となっている(図-4)。

IV. 沖永良部島の畑地灌漑

1. 概要

沖永良部島は水源に乏しい地域であり、これまで農業用水を多くのため池や地下水に依存してきた。

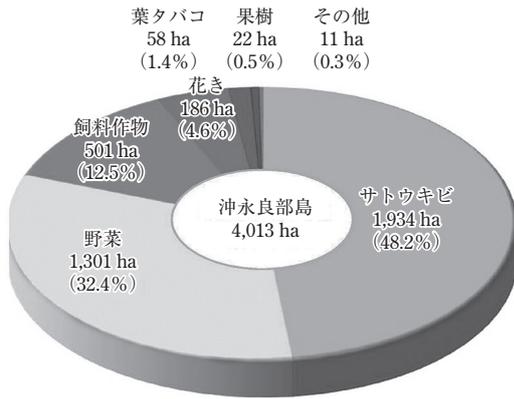


図-3 作付面積²⁾

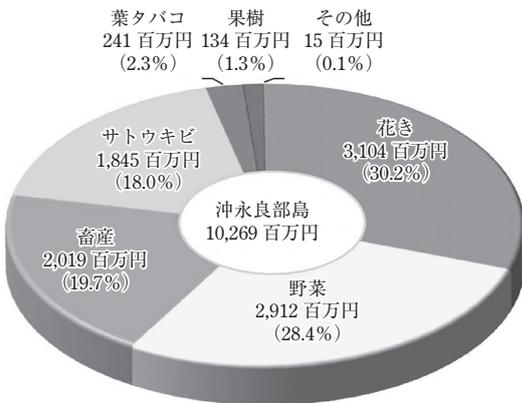


図-4 農業産出額²⁾

平成 19 年度から国営かんがい排水事業沖永良部地区により、地下ダムやファームポンド、幹線水路等の整備が行われており、令和 3 年度の事業完了を予定している。

また、県営畑地帯総合整備事業により地区内の配管や給水栓、末端散水施設を整備しており、令和 8 年度の事業完了を予定している。

地下ダムを水源とする畑地灌漑については、平成 26 年度より一部通水が開始されており、事業が完了すれば、島内の約 56% の農地で畑地灌漑営農が可能となる (図-5)。

2. 畑地灌漑施設の水利用効果

スプリンクラ等を利用した灌水により、営農の省力化や、適時灌水による作物の増収と安定生産、そして、畑地灌漑を契機とした新規作物の導入や施設園芸の拡大が図られている (表紙写真, 写真-1, 2)。

V. 沖永良部島の畑地灌漑営農推進

1. 沖永良部島畑地かんがい営農推進協議会

沖永良部島では、町、県、国、土地改良区、JA、鹿児島土地改良事業団体連合会、製糖会社などで構成された「沖永良部島畑地かんがい営農推進協議会」により、畑地灌漑営農が推進されており、さまざまな活動が行われている (図-6)。

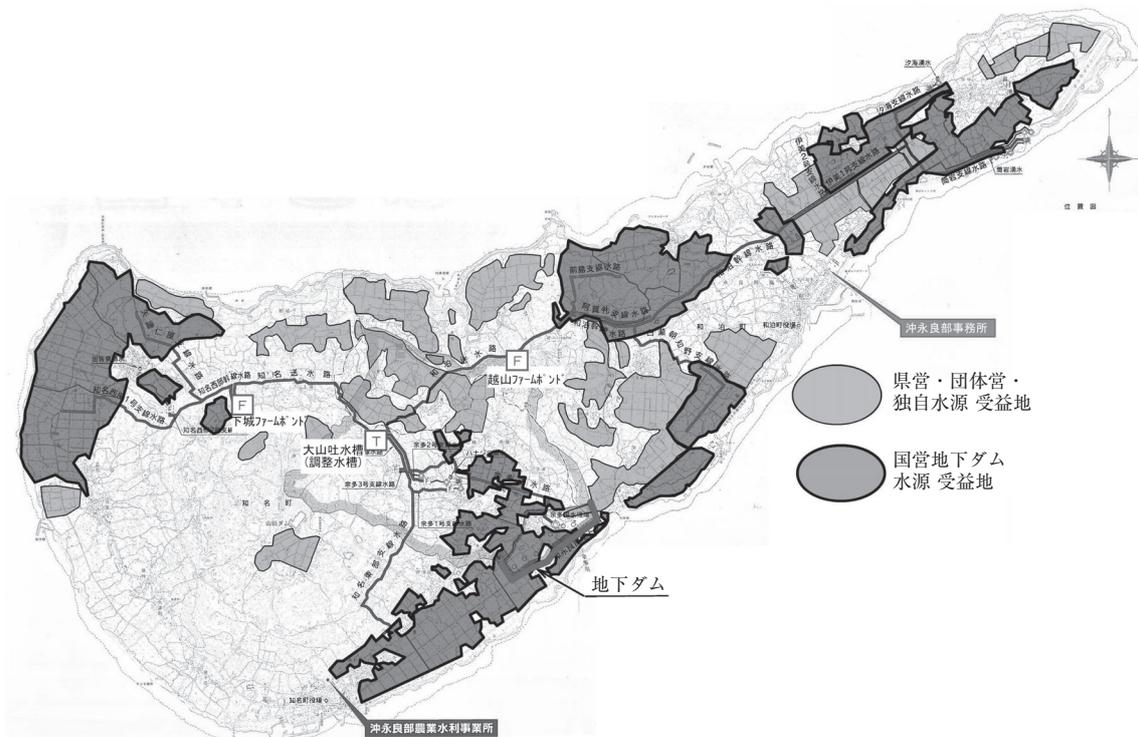


図-5 沖永良部島の畑地灌漑受益図



写真-1 液肥や防除を組み合わせた施設内散水 (花き)



写真-3 畑かんマイスターによる水利用啓発



写真-2 新規作物の導入 (実エンドウ)



写真-4 エラブユリ

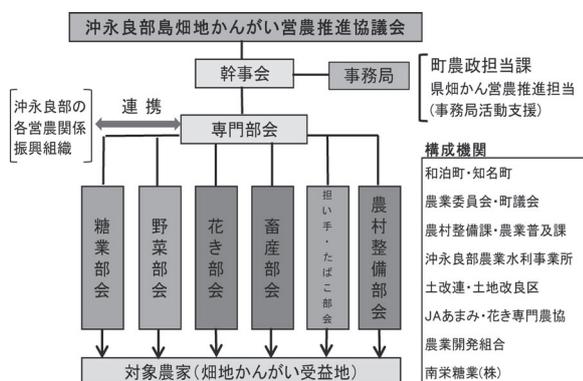


図-6 沖永良部島畑地かんがい営農推進協議会の構成図

2. 沖永良部島畑地かんがい営農ビジョン

沖永良部島畑地かんがい営農ビジョンは、将来の水利用による営農活動の方向性を示し、受益農家と関係機関が一体となって取り組むための指針として策定されている(計画期間：平成26～令和5年の10年間)。

基本方針として、①畑地灌漑営農の理解促進、②畑地灌漑営農の推進による経営体の育成、③畑地灌漑を活用した多様な産地の育成、④環境保全型農業の推進が掲げられている。

3. 畑地灌漑営農の推進

畑地灌漑営農の推進策として、散水器具の取扱い研

修や水利用の体制づくり、作物栽培講習会などが実施されている。

また、実証圃場や展示圃場により、畑地灌漑の効果をもPRしたり、畑地灌漑営農を先駆的に実践している水利用推進リーダー(畑かんマイスター)によって、水利用の啓発・普及が図られている(写真-3)。

VI. おわりに

色とりどりの花々が咲き誇る花の島、「沖永良部島」(写真-4)。

地下ダムに貯えられた水が、沖永良部島の農業にとって「水どう宝—島をはぐくむ宝の水—」となるよう、今後も、畑地灌漑を推進していきたい。

引用文献

- 1) 鹿児島県統計協会：市町村民所得推計(市町村内総生産(平成28年度推計分))
- 2) 奄美群島農政推進協議会、奄美大島流域森林・林業活性化センター、鹿児島県大島支庁：平成30年度奄美農林水産業の動向(2019)